

●優秀賞

心づくり、知恵づくり、 体づくりを目指した 教育活動の創造

福島県石川町立南山形小学校

しお た ま さ のぶ
塩田正信



I 実践テーマ

「心づくり、知恵づくり、体づくりを目指した教育活動の創造」

—「3H30S」による全職員の実践—

II テーマ設定の理由

1 学校の実態

福島県南部の純農山村地区に位置する、創立136年目を迎える、へき地小規模校である。

全校児童数は39名。教職員数は11名。学級数は5学級で、内訳は単式学級2（1年、2年）、複式学級2（3・4年、5・6年）、特別支援学級1（2名）である。

児童数の減少傾向は顕著で、10年前と比べ50人減（約61%）、5年前と比べ25人減（約44%）の状況である。平成15年度に創立後初の複式学級ができ、平成17年度からは複式学級が2学級となり現在に至っている。こうした中、児童は様々な活動において全校生一丸となった活動が求められる。全教職員による全校生指導が合言葉である。

2 児童の実態

緑に囲まれた豊かな自然環境、3世代が同居する恵まれた家庭環境の中でのびのびと生活する児童たちである。一方、地域全体の過疎化、少子化に伴う児童数の減少、極小規模校化もあり、生涯にわたる基礎的な力を培う小学校教育

の役割に照らすとき、児童の実態調査結果や教職員アンケートから下記の課題が導き出された。

(1) 心の教育の必要性

- ①耐性が弱い ②マナーの定着不足
- ③学校外活動での自信のなさ

(2) 学力のさらなる強化の必要性

- ①読み書き計算力の確実な定着
- ②思考、判断、表現力の強化

(3) 人間関係の固定化と個人差が顕著

- ①極少人数による児童間での序列化意識

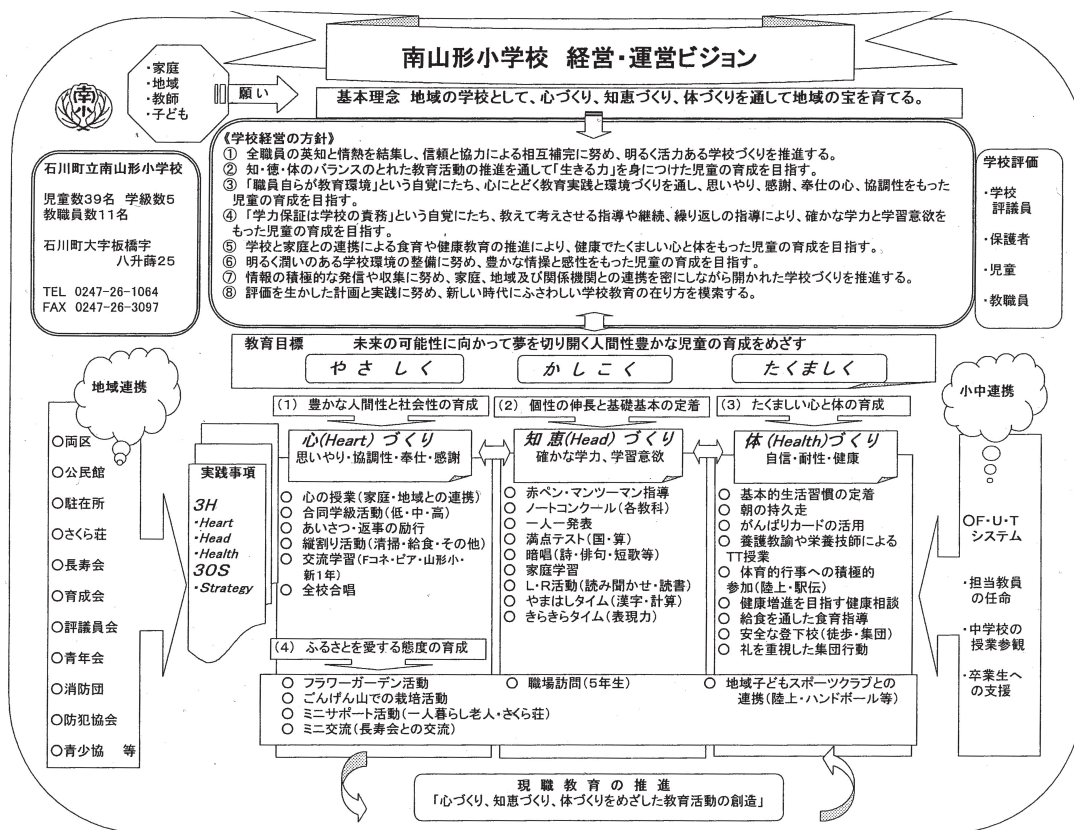
3 保護者・地域の願い

総数240戸の2行政区を基盤とする本校は、時代が変わっても学校が地域のシンボルであり、保護者や地域の学校に対する期待や愛着は大きいものがある。「学校への期待」として調査した結果は、下記のとおりである。

- 耐性の強化 ○あいさつの徹底
 - 社会性や協調性の向上 ○奉仕の心の育成
 - 思いやりの心の育成 ○基礎学力の定着
- 保護者や地域の願いは、学校が把握した児童の実態や課題とほぼ同様の傾向である。

4 教育目標

上記1～3を踏まえるとき、改めて知・徳・体のバランスのとれた教育の必要性を再確認することができる。そこで本校では、教育目標を「やさしく（徳）・かしこく（知）・たくましく（体）」と設定し、目標具現のために、「心づくり、知恵づくり、体づくりを目指した教育活動の創造」を実



●資料1／学校経営・運営ビジョン

実践テーマとして設定し、児童の課題解決に全職員一丸となって取り組むことにした。特に重視すべき価値や態度、能力として、児童の実態や保護者・地域の願いから「思いやり・協調性・奉仕・感謝・確かな学力・学習意欲・自信・耐性・健康」を重点項目に設定し、教科、道徳、特別活動等、学校の教育活動全体を通じて、11名の全職員が総力を挙げて実践することにした。(資料1)

Ⅲ 実践の進め方

1 「3H30S」による実践

(1) 「3H」とは

教育目標「やさしく(徳)・かしこく(知)・たくましく(体)」を具現するために、教育目標と実践テーマの関連を、右上のようにとらえ、意識しやすい「3H」とした。

さらに、重点項目を大きく三つに分け、心づく

りは「思いやり・協調性・奉仕・感謝」、知恵づくりは「確かな学力・学習意欲」、体づくりは「自信・耐性・健康」とし、相互に関連を持たせながら実践することにした。

3H (3つのH:スリーエイチ)	
<教育目標>	<3H>
○やさしく(徳)	→ 心づくり(Heart)
○かしこく(知)	→ 知恵づくり(Head)
○たくましく(体)	→ 体づくり(Health)

(2) 「30S」とは

心づくり、知恵づくり、体づくりを進めるためにそれぞれについて10ずつ、合計30の重点実践事項を「30のストラテジー」として設定し、意識しやすくするため「30S」と名付け、全職員で指導分担をした。具体的内容は、資料2のとおりである。

30S (30のS:サーティーエス)
○Strategy(ストラテジー)→方策

(3)「3H30S」の導入の意義

「3H30S」は児童、保護者、地域への学校の約束であり、教職員にとっては教育実践の合言葉である。一つの言葉で学校に関わるすべての人が共通イメージを持つことができるようにした。導入の意義を整理すれば、下記のようなる。

- ① だれでもわかり、だれにでも説明できる具体的な実践事項(ストラテジー)となる。

【教育目標達成のための実践の具体化】

- ② 日々の日常的な教育活動における教育的意義の再確認ができる。

【日常実践の間断のない反省・改善】

- ③ 目指すべき教育の方向性を常に保持・意識できる実践形式とすることができる。

【児童、教職員、保護者等による共有】

2 実践の構想

本実践は、児童の知・徳・体の調和のとれた発達を目的とする学校教育の意義を改めて意識し直し、学校教育全体にわたって、児童にとって教育的意味の満ちあふれた教育活動を意図的・計画的に展開することを通して教育目標の具現を目指すものである。本実践の構想をまとめると資料3のようになる。知・徳・体の調和のとれた発達とは、換言すれば、それぞれの学年、年代に応じた知力や体力、規範意識や倫理性などからなる「教養」(平成14年2月中教審答申「新しい時代における教養教育の在り方について」)を身に付けることであり、このことは本校教育目標の目指す姿でもある。

IV 実践の概要

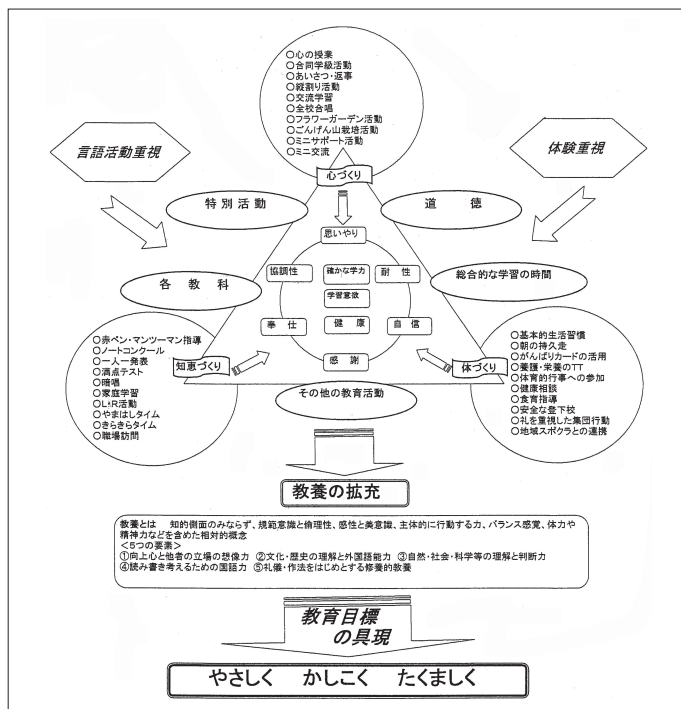
1「3H30S」の概要

(1)心づくりの10S

主として教育目標の「徳」(思いやり・協調性・

3H30Sの実践状況						
教育目標	3H	実践の目標	No	30S(ストラテジー)	実践内容	回数等
やさしく	心づくり	思いやり	1	心の授業	地域との連携による道徳授業	各学年1～2
			2	合同学級活動	1・2年合同、3～6年合同	各学年1～2
		協調性	3	あいさつ・返事の励行	おはよう・こんにちは・さようなら・はい	年間
			4	縦割り活動	給食活動、清掃活動、その他の活動	年間
		奉仕	5	交流活動	フライング・メソッド、ピア交流、山形小交流	フ10・ピ3・山3
			6	全校合唱	月の歌を全校で合唱	年3
		感謝	7	フラワーガーデン活動	花いっぱい環境づくり	年間
			8	ごんげん山栽培活動	さつまいも栽培	目標500kg
			9	ミニサポート活動	さくら荘・一人暮らし老人・ふれあい広場訪問	年3
			10	ミニ交流	長寿会とのグランドゴルフ交流	各学年1～2
かしこく	知恵づくり	確かな学力	11	赤ペン・マンツーマン指導	丸つけ指導と1対1による指導	年間
			12	ノートコンクール	国・算・理・社のノートコンクール	毎学期1
		学習意欲	13	一人一発表	1人1回は発表して全員参加の授業	年間
			14	満点テスト	満点をとるまで行う漢字・計算テスト	毎学期1
			15	暗唱	チャレンジ暗唱名文100選	各学年配当分
			16	家庭学習	低一20分、中一40分、高一60分	年間
			17	L・R活動	読書習慣づくりと読書の会の読み聞かせ	年間
			18	やまはしタイム	朝15分の国語・算数学習	年間
			19	きらきらタイム	読書・発表会・スケッチ	年40回
			20	職場訪問	5年生の地域の職場見学	5回
たくましく	体づくり	自信	21	基本的生活習慣の定着	早寝・早起き・朝ごはん・歯磨き、洗顔等	年間
			22	朝の持久走	始業前の朝の持久走	年間
		耐性	23	がんばりカードの活用	水泳・持久走・なわとびのカード等	適時
			24	養護教諭・栄養技師によるTT	健康や食育に関する授業	各学年1～2
		健康	25	体育的行事への積極的参加	駅伝や陸上大会への参加	適時
			26	健康増進を目指す健康相談	体に関わる児童や保護者への相談活動	年間
			27	給食を通じた食育指導	給食と関連させての食育指導	年間
			28	安全な登下校	徒歩・集団による登下校	年間
			29	礼を重視した集団行動	集団の中での礼儀や作法の定着	年間
			30	地域子どもスポーツクラブとの連携	下校指導・実技指導・児童指導の連携	年間

●資料2／30Sの具体的内容



●資料3

奉仕・感謝)の育成のために10のストラテジーを重点的に実践した。(別表1)

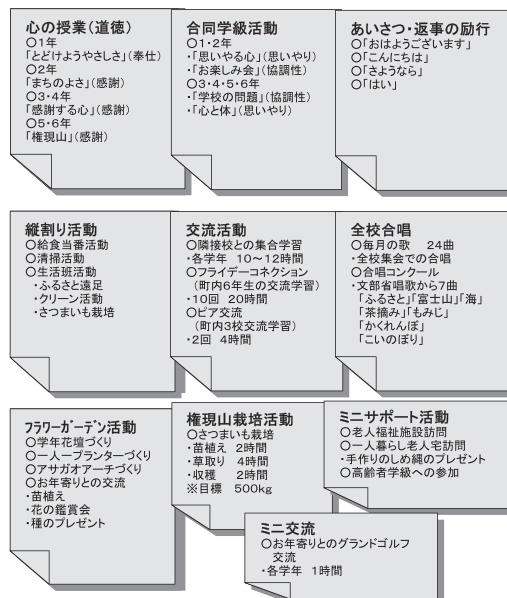
道徳性の育成に関わる目標ゆえ、「あいさつ・返事」や「縦割り活動」(異学年児童による生活班での活動)など、日常的な活動を通しての慣習的な道徳性の育成と地域人材を活用した道徳授業である「心の授業」やボランティア的な活動である「ミニサポート活動」などトピック的、体験的な活動を通しての道徳性の育成の両面からストラテジーを決定した。それぞれの実践は、様々な教育的価値を内在する活動であるが、「思いやり・協調性・奉仕・感謝」の心情や態度を育てることを重視するとともに、そうした児童の姿をできるだけ見とり、助言や賞賛などに生かすよう心がけた。

(2) 知恵づくりの10S

主として教育目標の「知」(確かな学力・学習意欲)の育成のために10のストラテジーを重点的に実践した。(別表2)

学力の育成に関わる目標であることから、「赤ペン・マンツーマン指導」や「一人一発表」、「満

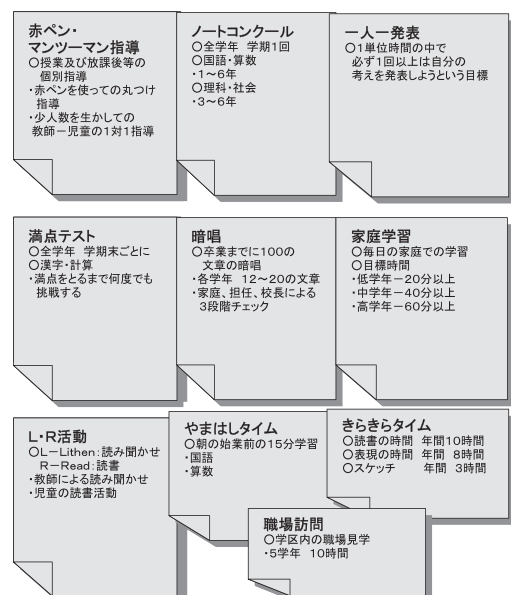
—主として「思いやり・協調性・奉仕・感謝」の心情や態度の育成をめざす—



●別表1/心づくりの10のストラテジー

点テスト」など、授業に関わる日常的な活動、「暗唱」や「家庭学習」など家庭との連携に基づく学習習慣形成に関わる活動、「L・R活動」や「やまはしタイム」など、学力を下支えする活動という三つの面からストラテジーを決定した。それぞれの実践は、いずれも継続や積み重ねが必要とされる活動であり、児童自身の耐性や教職員の根気強い指導が求められる活動でもある。したがって、主として「暗唱」のように「学習意欲」の向上を目指す活動が、練習の過程や結果を通して「耐性」や「自信」の育成につながることもある。「30S」の取り組みは、目指す目標に向けての総合的なストラテジーでもある。

ー主として「確かな学力・学習意欲」の向上をめざすー



●別表2 / 知恵づくりの10のストラテジー

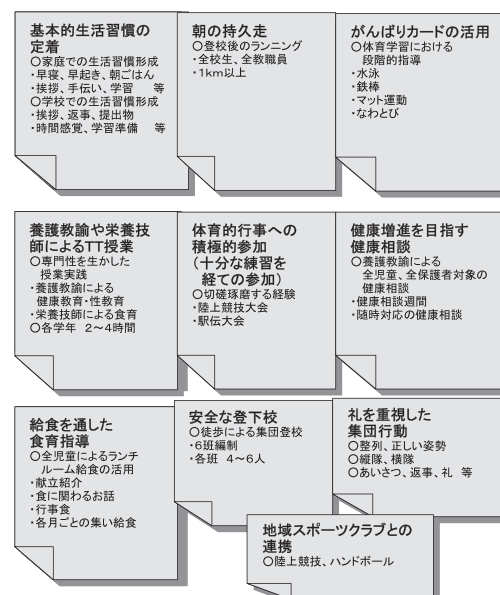
(3) 体づくりの10S

主として教育目標の「体」（自信・耐性・健康）の育成のために、10のストラテジーを重点的に実践した。（別表3）

健康な心と体の育成に関わる目標であることから、「基本的生活習慣の定着」や「安全な登下校」、「朝の持久走」など日々の継続的な日常的活動、「がんばりカードの活用」や「養護教諭・

栄養技師によるTT」など教職員の専門性の積極的発揮に基づく活動、さらに「給食を通した食育指導」や「健康増進をめざす健康相談」など家庭の参加や協力など家庭の教育力向上に関わる活動といった三つの面からストラテジーを決定した。それぞれの実践は、家庭との連携や継続性が強く求められる活動でもある。学校と家庭が協力して、表裏一体としての健康な心と体を根気強く育成することを目指し実践に取り組んだ。

ー主として「自信・耐性・健康」の育成をめざすー



●別表3 / 体づくりの10のストラテジー

2 「3H30S」の充実した実践のために

(1) 「実践発表会」の取り入れによる改善的实践

「3H30S」の実践を評価を加えながら反省的・改善的に展開するために、年間4回の発表会を行った。

- ①第1回中間実践発表会—7月（校内）
- ②第2回中間実践発表会—10月（校内）
- ③第3回中間実践発表会—12月（他校職員へ）
- ④第4回年間実践発表会—2月（保護者へ）

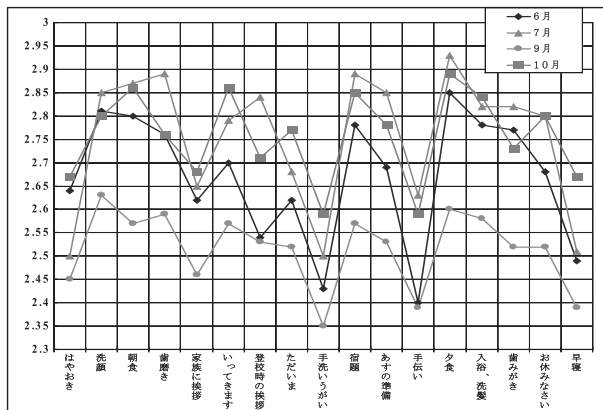
30のストラテジーの担当教職員が実践の経過をまとめ、プレゼンテーションを通して発表した。計画的に中間発表会を行い、校内はもとより他

暗唱に取り組んで(子供の声)

- ・ お母さんに「よく覚えだね。頭いいね。」とほめられてうれしかったです。(1年)
- ・ 3日連続合格した日があってうれしかったです。(2年)
- ・ 校長室に行って校長先生に聞いてもらえるのが楽しみです。(3年)
- ・ 長い文章を覚えたときはとてもうれしかったです。(4年)
- ・ お母さんが昔この本(伊豆の踊子)を読んだことがあって、なつかしうに聞いてくれました。(5年女子)
- ・ 「いしかわ時間」にお家の人が聞いてくれます。
- ・ 長い文章を覚えるのが大変です。(6年女子)
- ・ 「1ヶ月かかったね。よく頑張った」とお母さんに言われた。(まなび)



家庭生活での習慣定着状況



●12月の中間発表会の資料の一部

校職員や保護者などからも評価を受けることで、成果や実践上の課題が明確になり、戦略の改善の実践や教職員の意識、指導力の向上に役立った。また、児童個々の変容やつまずきなども明らかになり、賞賛や指導法の改善につなげることができた。

(2) 児童の変容をとらえるための「評価カード」の累積

「3H30S」の目的である「心づくり・知恵づくり・体づくり」がいかに進んだかをとらえるためには、児童一人一人の学習や生活上の変容を事実即して把握することが必要である。事実即するためには、児童の行動の観察と解釈が求められる。そして、その解釈は1回あるいは少数回の行動解釈ではなく、複数回にわたる膨大な行動解釈であることがより望ましいと言える。そこで、児童の行動を記録したり、その意味を解釈したりすることができる評価カードを作成し、児童の変容を事実即してとらえることができるようにした。また、児童の変容を広範な

3H30S「評価カード」

(月日・対象児童名 7月15日 2年 〇〇君)

心づくり (心・知恵・意志・努力・感謝)	知恵づくり (確かな学力・学習意欲)	体づくり (自信・耐性・健康)
1. 心の授業	11. 赤ペン・マンツーマン指導	21. 基本的生活習慣の定着
2. 合同学級活動	12. ノートコンクール	22. 朝の持久走
3. あいさつ・返事の励行	13. 一人一発表	23. がんばりカードの活用
4. 縦割り活動	14. 満点テスト	24. 読書・読解はら
5. 交流活動	15. 暗唱	25. 体育的行事への参加
6. 全校合唱	16. 家庭学習	26. 読書・読解はら
7. フラワーガーデン活動	17. し・り活動	27. 給食を通じた食育指導
8. ごんげん山栽培活動	18. やまはしタイム	28. 安全な登下校
9. ミニサポート活動	19. きらきらタイム	29. 礼を重視した集団行動
10. ミニ交流	20. 職場訪問	30. 読書・読解はらの継続

※該当する番号を○で囲んでください。
 <MEMO>
 さつまいも畑の草とりで1年生の〇〇くんが草すてに行ったら草を落としながらだったので、〇〇くんが後ろからついていて草をひろってあげていた。「〇〇くん、落とすなよ。」とお兄さんになつたように居かましていた。1年間の成長は大きいと感じた。
 (記入者 〇〇君)

●資料4／3H30S「評価カード」



●校長室の個人ボックス

行動観察からとらえることが可能になるよう、39名の児童一人一人のボックスを校長室に設置してカードの累積を図った。学校の教職員全員による複数の目で、児童一人一人を見つめることができるように心がけた。

(3) 児童に目標を持たせるための「自己目標カード」

「3H30S」は児童にも保護者にも地域にも説明をした。そこで、児童自身が取り組むストラテジーを、「心づくり・知恵づくり・体づくり」について、それぞれに八つ選び、児童に自分の目標を持たせ意欲的に取り組ませるようにした。

ぼくの3H30S <2学期> 年

Head(知恵づくり)

がんばりこ	30S	反省 (○△×)
朝の持		
L・R活動		
満点テスト		
やまはしタイム		
ノートコンクール		
きらきらタイム		
家庭学習		
1時間1発表		

Heart(心づくり)

がんばりこ	30S	反省 (○△×)
ミニサポート		
合同学級活動		
あいさつ選手		
フラワーガーデン		
縦割り班活動		
権現山野営作り		
全校合唱		
ミニ交流		

Health(体づくり)

がんばりこ	30S	反省 (○△×)
朝の持久走		
給食		
朝の持久走		
がんばりカード		
集団登校		
子どもクラブ		
集団行動		



2学期のおわりには、みんなにどんな力がついているかな。

何をどのようにがんばったかをかいてみよう

心	
知	
体	

●資料5

V 実践の成果

1 児童の姿から（「評価カード」から）

(1) 「心づくり」

①ストラテジー6「全校合唱」〈協調性・意欲〉

夏休みの合唱練習。1年から6年まで39人全員が揃い、発声練習を始めた。口形がよい児童を尋ねると1年Y児、6年M児の名前が挙がっ

た。上級生から推薦されたY児、認められたM児は自信を持って練習に取り組んだ。学年の枠を越えて友達のよさを認め合い、素敵な歌声を目指して高め合う姿に指導する側もうれしさがこみ上げてきた。

②ストラテジー1「心の授業」〈感謝〉

6年Y児はあいさつについて「するように言われているからする」と考えていたが、道徳の心の授業で地域の方の話を聞き、「自分たちのあいさつが地域の人の心を潤すことに役立っている」と知り、笑顔であいさつするようになった。

③ストラテジー4「縦割り活動」〈思いやり・協調性・感謝〉

5年T児はたった一人の5年生。6年生との複式学級生活や縦割り活動を経験する中でリーダーシップを身に付け、下級生が感謝とあこがれを抱く存在になった。

(2) 「知恵づくり」

①ストラテジー15「チャレンジ暗唱」〈確かな学力・意欲・自信・耐性〉

特別支援学級の5年生R児は名文暗唱で、「言志四録」に挑戦し見事合格した。練習に要した時間は1か月だった。1か月間も同じことを繰り返すことができたこと、そして繰り返せば必ずできることを証明したことは、本人のたいなる自信になるとともにほかの学級の児童を勇気付け、親や教職員の心をも感動させた。

②ストラテジー14「満点テスト」〈確かな学力・意欲〉

1学期の満点テストで再テストを何度も受け、それでも合格できず、夏休みに入ってから登校してテストを受けていた6年N児は、2学期になり自主学習に取り組み、2学期末の満点テストでは国語も算数も学期内での合格を果たした。N児に基礎的な学力が形成されたことはもちろんだが、1学期の失敗を糧に自ら意欲を高めたものと思われる。

③ストラテジー17「L・R活動」〈確かな学力・学習意欲・耐性〉

入学当初、じっと座っていることが苦手で「早

く遊びたい」と訴えていた1年のH児は、毎日の読み聞かせにより「今日の読み聞かせは何ですか」と聞いてきたり、20分を越える長い話でもしっかり座って聞いたりすることができるようになった。

(3) 「体づくり」

①ストラテジー-21「基本的生活習慣の定着」〈確かな学力・健康・学習意欲〉

2年H児、4年T児の兄弟は、4月当初洗顔やハンカチの携帯など基本的生活習慣の定着が芳しくなかったが、健康相談を機に両親が子どもに積極的に関わるようになったことで定着状況に変化が見られるとともに学習や生活への意欲も向上した。

②ストラテジー-23「がんばりカードの活用」〈学習意欲・自信・耐性・健康〉

1年のM児は、ぜんそく持ちのためあまり運動を好まず、朝の持久走にも消極的であったが、「がんばりカード」を配ると先を争って校庭へ出るようになった。母親から「“ずいぶん体が丈夫になりましたね”と、かかりつけのお医者さんに言われました。」と喜びの報告もあった。

③ストラテジー-25「体育的行事への積極的参加」〈意欲・耐性・自信〉

6年T児は、1年生の時から、持久走をするといつでも5人の同級生の中で2番目であった。郡の陸上大会や町の駅伝大会の練習をする中で、T児は「続けること」の大切さを知り、練習のない土曜日や日曜日にも家の周りを走り続けた。

小学校生活最後の校内持久走大会で、T児は念願の学年1位を全校生、教職員、母親、祖母、そして地域の方々の前で自分の力で獲得した。

2 学校評価結果から

保護者24名を対象とした学校評価結果は資料6のとおりである。小規模校ゆえ全項目で100%を目指したいところではあるが、10の観点についてそれぞれに概ね高い評価をいただいたことや特に1や4の項目の高い評価結果は、「3H30S」に対する保護者や児童の満足度として受け止めることができるものと考えられる。

一方、100%への数字の差は、今後いっそう「3H30S」の展開方法を工夫するとともに、児童の実態や保護者の願いに沿ったストラテジーの改善、転換に配慮しなければならないと考える。

3 教職員の意識の変化から

(1) 「チーム」としての総力と実践が児童を育てることの確認

学校の教育活動は多岐にわたる。朝の登校から下校後の学習や生活習慣まで、すべてが教育の営みの中に存在する。そして、これら本当に多くのことは学校に勤務するすべての教職員の総力により展開されている。学校の教育力の大小は、教職員の総力の結集度である。児童一人一人を全教職員で育てる意識を持ち、「チーム」として力を合わせ、共通実践することの大切さを全教職員で確認し共有することができた。

(2) 学校教育活動の「どこを切っても血の出

NO	質 問 内 容	7 月	2 月	比 較
1	子どもは楽しく学校に行っている	9 3 %	9 4 %	↑
2	先生は一人一人に応じた指導をしている	7 8 %	8 8 %	↑
3	学校は、命の尊さ、社会のルールやマナーを身につけさせる指導をしている	8 6 %	8 8 %	↑
4	子どもは学校行事に積極的に参加している	9 2 %	9 8 %	↑
5	学校は早寝早起きなど基本的生活習慣の指導を行っている	8 8 %	9 0 %	↑
6	先生には子どものことを相談できる	8 4 %	8 3 %	↓
7	学校では子どもの安全に関する指導が行われている	8 9 %	9 0 %	↑
8	学校の行事や活動の様子をよく知っている	7 4 %	8 6 %	↑
9	先生方は保護者とのコミュニケーションを図っている	8 1 %	8 6 %	↑
10	学校は生活の場として環境が整えられている	9 0 %	9 1 %	↑



●教職員手作りの100選

る教育」を目指すことの意義の確認

学校で行われる教育活動が、児童の知・徳・体にわたるバランスのとれた成長につながるためには、日常当たり前のように行っている活動が真に児童のためになっているか、児童にどんな力をつけているのかを、教職員自身が絶えず自問自答しながら、日々の教育活動に当たることが大切であることを、確認し共有することができた。

(3) 「子どもの可能性は多面的であり、無限であり、それを引き出し開花させるためには、教職員自身の自己向上が求められること」の確認

今年始めた「チャレンジ暗唱名文100選」は、各学年の配当分について、39名のすべての児童が合格した。教職員全員で作成した当初、正直なところ全員の合格は想定できなかった。児童は教職員の予想以上の姿を見せた。4月から1年間、毎日毎日暗唱に取り組む児童の姿、「覚えしました!」と学校へ駆け込むように登校する児童、合格して歓声をあげる児童、長い間沈黙し、思い出し思い出し挑戦する児童、長い文章をすらすらと思いを込めて朗読する児童……、そんな児童の姿に感動の毎日であった。「初めから、できないと決めていたのは自分」と言い切った3年生の児童もいた。もしかすると「できないと決めていたのは、教職員自身かもしれない」と

11名の教職員は自問自答した。「求める子どもに
応える教師。求める教師に応える子ども」児童
を伸ばすためには、教職員自身の自己向上が何
よりも大切であることを、児童の姿から日々確認
した毎日であった。

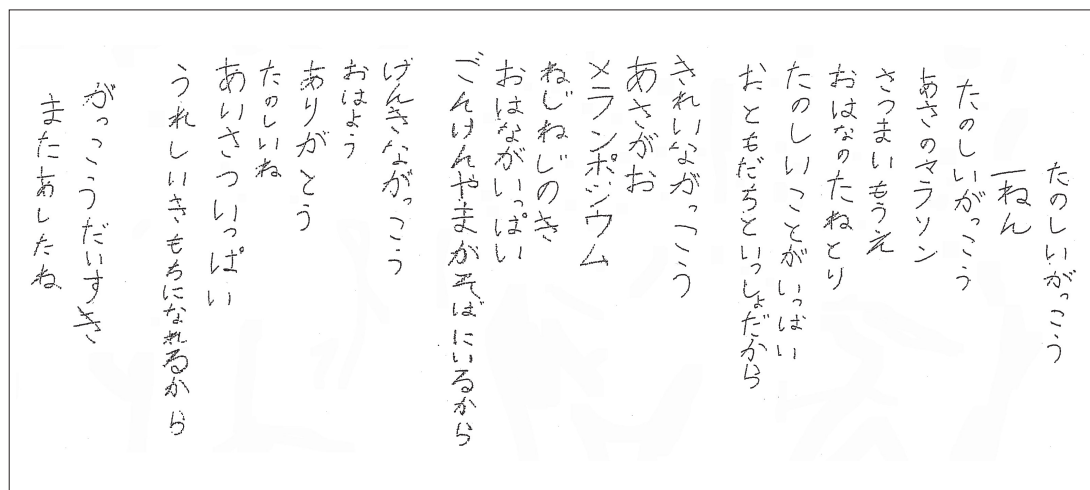
Ⅵ 実践の今後

「たのしいがっこう。……がっこうだいすき。
またあしたね。」これは、1年S児が書いた詩
の一節である。

知・徳・体の調和のとれた児童の育成は、児童が期待を胸に登校し、嬉々とした学校生活を送り、充実感を胸に下校できる、そんな学校を創ることである。39名の児童一人一人がそんな教育活動を享受できるよう、今後は下記の点にさらに心がけていきたい。

- 児童一人一人の変容のより多面的な把握と記録の累積
- 30のストラテジーの検証・改善・継続
- 教育課程の編成・実施・評価とのより密接な連動

全職員が一緒に汗を流す教育実践の連続の中で見出すことができた「全職員による総力戦」という言葉を、学校の風土として根付かせ、子どもたちを新たな地平に導く「3H30S」のさらなる充実を創造していきたい。



●資料7／1年児童の書いた詩

<参考文献>

- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編（文部科学省）
- ・ 小学校学習指導要領解説 国語・算数・特別活動・道徳編（文部科学省）
- ・ 児童生徒の夢がかなう福島の教育の実現に向けて（福島県教育庁義務教育課）～新しい教育課程の編成・実現・評価のために～
- ・ 児童生徒の夢がかなう福島の教育の実現に向けてⅣ（福島県教育庁義務教育課）
- ・ 個に応じた指導に関する指導資料（文部科学省）
- ・ 観点別学習状況の新評価基準法（図書文化）
- ・ 新世紀ふくしまの学び・2010（福島県教育委員会）
- ・ 公立学校の底力（ちくま新書）
- ・ 学力を育てる（岩波新書）
- ・ 調査報告「学力低下」の実態（岩波ブックレット）
- ・ 公立小学校の挑戦－「力のある学校とは」（岩波ブックレット）
- ・ それでも脳はたくらむ（中公新書ラクレ）
- ・ 中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（文部科学省）
- ・ 学校ってなんだろう（筑摩書房）
- ・ 杉並区立「和田中」の学校改革（岩波ブックレット）
- ・ 文明としての教育（新潮新書）
- ・ 子どもの日本語力をきたえる（文藝春秋）